

# 西濃農林事務所の普及活動状況

平成25年12月26日現在

## 今月の重点活動

### ■トマト ほ場巡回及び栽培研究会の開催

12月9日～18日に、海津トマト部会5支部ごとに、ほ場巡回及び栽培研究会が開催され、他の生産者のほ場と自らの栽培管理とを比べながら、生産者間で肥培管理、灌水、病害虫対策などについて、熱心な意見交換が行われた。

農業普及課から、ほ場巡回時に生育や栽培管理について意見を述べるとともに、研究会では厳寒期における栽培管理（生育障害対策、保温、肥培管理、病害虫対策）について説明した。

本年産は、抑制作型を中心に、定植時の高温を避けるため、7日程度定植を遅らせた生産者が多く、昨年同等以上の高温が9月、大雨・台風の影響が10月まで続き、11月以降は一転して気温が急激に低下したことから、肥大・着色が遅れたものの、現在の生育は概ね良好な状況である。病害虫の発生も少なくなり、促成作型の出荷も始まることから、今後の出荷量の増加が期待されている。

## 活力ある新産地づくり

### ■ブロッコリー ブロッコリー新品種導入試験の実施

近年の秋季の異常高温、秋から冬にかけての急激な気温変化などの天候要因により、ブロッコリーの品質低下及び収穫時期の不安定化が問題となっている。農業普及課では、課題解決の一手法として、花蕾の乱れが少なく、低温伸長性に優れる新品種「おはよう」及び「ともえ」の導入試験を行っている。

9月上旬に定植した「おはよう」は、11月上旬に収穫期を迎え、9～11月の高温・乾燥により、従来品種ではブラウンビーズなどが発生したものの、「おはよう」では異常花蕾の発生が少なく、順調な出荷となった。「ともえ」は、現在花蕾が5cm前後となっており、1月出荷の主要品種となることが期待されている。

## 売れる農畜産物づくり

### ■大豆 適切な収穫の支援

大豆の収穫は、平年より早い11月19日から始まり、12月上旬までは天候にも恵まれ、作業は順調に進んだものの、9月～10月の集中豪雨・台風による風水害の影響により、くず粒が多く、2等中心となり、平年より小粒傾向で、収量もかなり少ない状況にある。

12月中旬から、間断なく降雨があり、収穫作業は停滞し、年内に収穫できないほ場も見込まれるなか、引き続きJAとの連携のもと、適切な収穫について支援していく。

### ■きゅうり 抑制裁培反省会の開催、半促成栽培の定植開始

12月18日に、海津胡瓜部会の抑制裁培反省会が開催され、キュウリ黄化えそ病に関わる調査結果と対策、新品種の栽培結果等について説明した。

また、半促成栽培の定植は、12月5日から始まり、ピークは12月中旬で、12月25日頃まで行われる見込みである。キュウリ黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマは、前作の生き残りがいることが予測されるため、定植後は早めに防除するよう巡回指導を行っている。

### ■いちご 目揃え会の開催

いちご6部会ごとに、目揃え会が開催された。今年産は、10月の高温の影響から、小玉傾向であり、腋果房の出蕾も遅れた。濃姫は、先青果の発生が目立つため、規格と着色NO.を厳守し、過熟果を出荷しないよう再確認を行った。農業普及課からは、今後の厳寒期の草勢維持対策として、電照及び炭酸ガス施用の方法を中心に説明を行った。

また、平田いちご園芸組合では、12月4日に支部巡回研修会が開催され、部会員相互にほ場を巡回し、生育状況や出荷見込みを確認し合った。

## ■ さといも 目揃え会の開催

11月19日に、大垣さといも部会の目揃え会が開催され、農業普及課から、収穫・貯蔵の留意点及び芽つぶれ等の被害いもの要因などについて説明した。また、市場担当者からは、部会員が持ち寄ったさといもを用いて、選別基準について説明があった。

当部会では、収穫された中から丸いもだけを選別し、「里丸」のネーミングで販売してブランド化を進めており、今年は「里丸」シールを部会で作成し、更なる差別化を図ることとしている。



【目揃え会の様子】

## ■ モロヘイヤ 反省会の開催

12月6日に、下宮青果部会協議会モロヘイヤ部会の反省会が開催された。雨よけ施設での栽培であるものの、10月以降の度重なる台風の接近や、ハスモンヨトウの多発生により、収穫を早めに打ち切らざるを得なかったことが大きく影響し、出荷量が伸びなかった。

農業普及課からは、次年度に向けて、春期作でのコナジラミ類対策や、秋作での性フェロモン剤を活用したハスモンヨトウ防除について指導を行った。

## ■ なし 病害虫対策等に向けた支援

12月5日、11日に、梨の栽培研修会が開催され、農業普及課からは、黒星病、ハダニ類、カイガラムシ類を対象とした、冬季の耕種的防除・薬剤防除の注意点について説明した。

また、12月11日には、今年の「なつしずく」栽培を振り返り、植物成長調整剤の効果的な使用方法等について、メーカー担当者を講師に招いた勉強会を開催し、活動支援を行った。

## ■ かき 間伐・剪定研修の開催

12月19日に、南濃柿部会の間伐・剪定研修会が開催され、部会員23名の参加があった。農業普及課から、概要説明の後、予め決めておいた間伐樹・永久樹を使い、間伐・剪定の実演を行った。今年は、先に受講した県剪定研修会での柿名人の指導内容を手本として、県研修会に参加した部会員にも指導に加わってもらい、主枝・亜主枝に、新しい結果母枝を着ける、思い切った樹形改造のための剪定を行った。



【柿名人の剪定法を説明】

## 多様な担い手の育成・確保

### ■ 大垣養老高校 管内農業の現地巡回学習会を開催

12月5日に、西濃地域の農業の現状と課題を理解することをおして、地域農業への興味・関心を一層高め、農業の担い手育成・確保に資することを目的として、管内農業の現地巡回学習会を開催した。

大垣養老高校の生徒29名が参加し、管内7ヶ所の生産現場で、野菜、水田作、肥育牛、養鶏、花き等の経営状況について学び、農業への理解を深めることができた。



【肥育牛の視察状況】

## 魅力ある農村づくり

### ■ 鳥獣害対策 大垣市で獣害被害防止柵設置

鳥獣害対策が進んでいる三重県など、隣接地域からの越境が想定され、鹿・猪の被害が増加する上石津町と青墓町において、11月に入り、全長約37kmに及ぶ金網柵の設置が始まっている。

農業普及課では、センサーカメラの設置、農家からの聞き取り等により、金網柵の被害防止効果等について確認していくこととしている。



【防止柵の設置作業】